

## 第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

### 報告書資料 一般-120

学校名・団体名	熊本市立田迎西小学校
HPアドレス	<a href="http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/tamukaenishies">http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/tamukaenishies</a>
コース	学校支援
活動・研究テーマ	生きぬく力を育む防災教育の実践 ～熊本地震と向き合い、伝え合う活動をとおして～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>熊本地震での経験を省察することを通して、課題を整理し、子どもたちの生きぬく力の育成に向けた実践を行う。これまでの、防災教育（地震避難訓練を含む）を大幅に見直し、具体的な実践を行う過程を通して、子どもたちが自ら考え判断し行動する力を高めることをねらいとする。また、多くの人々の支援や思いによって支えてもらった経験を振り返り、子ども達の震災を通して得た経験や学びを整理し、次は自分たちが地域や社会に思いを返していこうとする意識に高めることを目的とした活動を行う。</p>	

(1) 自ら考え判断し行動する、力強く生きぬく子どもの育成

①校内研修における熊本地震を教訓とした取組

5月9日の学校再開から、震災前の日常を取り戻すべく日々の教育活動に追われる毎日であった。時折おこる余震に緊張と怖さを感じながらも、熊本地震のことを振り返る余裕もないまま、その記憶は時とともに薄れ、ただ日々が流れていた。しかし、「今年度だからこそ取り組むべき内容があるのではないか」という思いから、校内研修で当初予定していた内容を見直し、表1のように熊本地震の省察を通じた取り組みを計画した。

表1 校内研修における熊本地震を教訓とした取組

日付	内容
6/27	校内研修「今年度の研究概要について2」 ・年度当初の計画を変更し、校内研修の時間を熊本地震の経験を振り返り、今後の教訓を得るための時間にすることを提案・承認。
8/1	校内研修「熊本地震を振り返る①～再びおきたら～」 ・再び同じ規模の地震が起こったと想定し、学校職員としてどのように動くべきか、初期対応のあり方、避難所運営のあり方等を考える。
9/5	校内研修「熊本地震を振り返る②～避難訓練を問い直す～」 ・熊本地震を経験し、これまでの避難訓練のあり方にはたくさんの課題があることに気づいた。そのため、これまでの避難訓練のあり方を問い直し、課題点を挙げ、改善案を協議した。
9/26	校内研修「熊本地震を振り返る③～児童の生きぬく力を高めるために～」 ・災害時によりよく生きぬく子どもを育てるために、私たち教職員が日頃どのような事を意識して教育活動に取り組むべきかを考えた。
10/4, 7, 19 避難訓練①, ②, ③	
10/24	校内研修「熊本地震を振り返る④～避難訓練を振り返る～」 ・熊本地震の教訓をもとに、これまでの避難訓練を大きく見直し3回に分けて実施した。子どもたちが、自ら考え、自ら命を守る行動ができることを目指して行ってきた。それらを通して見えてきた多くの成果とともに、新たな課題を確認した。
11/14	校内研修「熊本地震を振り返る⑤～生きぬく力を育てる～」 ・文部科学省の防災教育の研究開発校である日野市立平山小学校の五十嵐校長先生を講師に迎えて、先進的な防災教育を行なっている「生きぬく科」の取り組みを学んだ。

②避難訓練の見直し

校内研修で出された意見をもとに、安全教育部が中心となり、避難訓練の大幅な見直しを行った。その結果、最終的に子ども自身が教師が近くにいなくても自ら考え命を守るための行動を行うことができることを目指して、内容を表2のように3回に分け段階的に取り組むように改定し実施した。

表2 見直しを行った地震避難訓練の流れ

日付	内容
10/4	避難訓練①「揺れから身を守る方法」 ・朝自習の時間を活用し、揺れから自分の身を守る方法について各クラスで指導を行う。
10/7	避難訓練②「避難経路の確認」 ・業間の時間をつかい、基本的な避難経路を確認する。
10/19	避難訓練③「予告なしの避難訓練」 ・児童に予告せずに、自ら判断し身を守り、避難する訓練を実施。

③授業実践「命を大切に～熊本地震に学ぼう～」

いわゆる災害弱者とよばれる障害者や高齢者の対応については、この熊本地震においても大きな課題を残した。本校の支援学級の児童についても、前震や本震でどうしていいかわからず立ち竦んでいたり、大勢が集まる避難所生活で苦勞をしたりと、それぞれに課題を抱えていたことが本人や保護者からの聞き取りからわかってきた。普段は守られることが多い支援学級の子どもたちだが、いつ起こるか分からない災害に向けて、自分の命は自分自身で守るための力をつけておく必要がある。そこで、総合的な学習の時間や保健、学級活動の時間を使い、表3のようにクロスカリキュラムで学習を構成し授業を行った(10月6日～11月17日)。

表3 「命を大切に～熊本地震に学ぼう～」指導計画

次	時	学習内容	教科等
1		「自分をまもろう」	総合
	1	・熊本地震を振り返り、体験や思いを共有する	
	1	・揺れに対する対応法を学び、自分自身の身を守る方法を学ぶ	
	3	・校内の様々な場所や場面において危険予測を行う	
	2	・怪我への対処法を学ぶ	

2	1	「家族をまもろう」 ・防災袋の中身を考える事を通して、自分や家族の命を大切に思う心を育てる（地区別人権教育研修会 授業部会公開授業）	学級活動
	1	・これまでの学習を振り返り、自分が家族のためにできる事を考える	
3	1	「まとめ」 ・防災ゲーム「クロスロード」の形式で、災害時自ら考え判断する力を育てる。	総合

## (2) 学びや経験を、生活や社会に生かそうとする子どもの育成

### ① 東京都日野市立平山小学校との交流

平成25年度から今年度の4年間、文部科学省研究開発学校として、防災教育を中心とした安全教育に係る新教科「生きぬく科」に取り組んでいる東京都日野市立平山小学校と、熊本地震をきっかけに継続的な交流を行った(表4)。「生きぬく科」を通して防災について学んでいる平山小学校の児童と、実際に熊本地震を体験した本校の職員や児童との交流を通して、互いの学びと絆を深め合うことを目的に行った。

表4 日野市立平山小学校との交流

日付	内容
6/10	平山小4年生との交流「ひなん所生活を考えよう」 ・避難所生活における困難や乗り越えるための心の持ち方、他者と協力して過ごすために必要な情報を、本校職員へのインタビュー(Skype)を通して学ぶ。
7/20	平山小6年生 ・6年生が中心となり熊本の復興を願い取り組んだメッセージや募金、手縫いの雑巾が本校に届く。
11/14	平山小6年生との交流 ・避難所生活について、本校職員へのインタビュー(Skype) 校内研修「熊本地震を振り返る⑤～生きぬく力を育てる～」 ・文部科学省の防災教育の研究開発校である日野市立平山小学校の五十嵐校長先生を講師に迎えて、「生きぬく科」の取り組みを学んだ。 本校6年生から平山小6年生にむけたお礼の手紙を五十嵐校長へ手渡す。
12/19	本校6年生・平山小6年生 ・本校6年生から平山小6年生に向けて、メッセージや手縫いの雑巾等のお礼や現在の「幸福論」の取組について紹介した(Skype)。
1/25 2/1 2/8 2/15 3/1	本校支援学級・平山小支援学級 ・熊本地震の経験や避難所生活について、子ども達同士で伝え合う活動を行なった。全5回(1月25日～3月1日)の交流(Skype)では、自己紹介など子ども達同士が身近に感じる取り組みを行うことで、熊本地震の時の苦労した思いも素直に伝えることができた。
2/18	平山小学校研究発表会授業への参加 ・本校支援学級職員が日野市立平山小の研究発表会の授業へゲストティーチャーとして参加し、支援学級児童から熊本地震や本校の支援学級児童について直接質問を受けた。

### ② 6年生「町の幸福論」

6年生国語「町の幸福論-コミュニティデザインを考える」では、自分たちの町や学校、地域の将来を考えて、プレゼンテーション形式で提案する学習を行った。地域や人々とのつながりを改めて見つめ直し、それぞれが描いた未来に向かって今やるべきことを提案した。地域の為に自分たちができることを実践することが、地域の人々の笑顔につながり、少しでも市民の心が明るくなれば、熊本復興のきっかけにもつながるのではないかと考え取り組んだ。

### ③ 防災講演会、学校・地域防災フォーラムの開催

2月4日の土曜授業では、兵庫県学校支援・防災チーム「EARTH」の田中竜太郎先生を講師として招き、本校児童と保護者、自治会役員の方々を対象に、震災後の心のケアと地域連携の重要性についての講話をいただいた。さらに、講演会の後は防災フォーラムを行い、学校・PTA・地域の各代表から、震災後の取り組みについて発表を行い、今後の地域連携の必要性を地域の方々と確認し合うことができた。

## (3) まとめ

今年度、熊本地震を省察することを通して、子ども達の生きぬく力の育成を職員全体で考え、これからの社会を生きていく子ども達の資質や能力につながる数多くの実践ができた。一方、引き渡し訓練や地域連携の推進など今後さらに取り組んでいかなければならない課題も多く見えてきた。次年度も、この取り組みを継続し地域をはじめ多くの人々とのつながりや子ども達の力や笑顔につながる取り組みを重ねていきたい。